

TRA-TRAVEL Δ 企画 2024 (トラトラベルデルタ企画) ～三者間の創造的国際マッチング～

TRA-TRAVEL

■活動内容

「TRA-TRAVEL Δ 企画 2024 三者間の創造的国際マッチング」は、Δ（デルタ）と呼ぶ3者間マッチング方式を採用し、「①国内外のクリエイター＋②大阪の施設＋③私たち TRA-TRAVEL」を結び付けて、大阪の複数地域でアーティスト・イン・レジデンス事業「AIRΔ」とトークイベントシリーズ「TRA-TRA-TALK」を開催する企画です。

■コンセプト・ねらい

TRA-TRAVEL は、『大阪に国際間の芸術動線を創造する』ことを目的とした団体です。本活動のアーティスト・イン・レジデンス事業「AIRΔ」とトークイベントシリーズ「TRA-TRA-TALK」もまた大阪と国際間をむすぶ芸術活動の一環です。国内外の現代アートの潮流や実践を紹介し、さらに世界のアーティストたちの実践を大阪で展開します。

またそれぞれのイベントは、区をまたぎ大阪の多様な場所で開催しています。それによって地域の人やイベント施設の顧客などの新たな出会いや、偶発的な国際交流を生むことをコンセプトにしています。

そして大阪の潜在する場所から文化を発信するとともに、新たな場所性を提示し、海外の視点から、大阪の歴史や文化芸術を発掘する事で、大阪の文化芸術をボトムアップすることを中長期的な目標としています。

■活動実績

●AIRΔ (アーティストレジデンス事業)

“AIRΔ vol.8 with WHITE SPACE Beijing”

楊健 (Yang Jian / ヨウケン) 中国人アーティスト

企画：アーティスト・イン・レジデンス/ 展覧会

場所：Super Studio Kitakagaya (大阪市住之江区)

日時：2024年6月～7月

“AIRΔ vol.9 with The Japan Foundation, Manila”

ララ・モンセラット (Lala Monserrat) フィリピン人アーティスト

企画：アーティスト・イン・レジデンス/展覧会

場所：Super Studio Kitakagaya/千鳥文化(大阪市住之江区)

日時：2024年10月～12月

“AIRΔ vol.11 with TOKAS”

ハナン美弥 アメリカ在住日本人アーティスト

企画：アーティスト・イン・レジデンス/トークイベント

場所：PORT(大阪市此花区)

日時：2024 年 8 月

“AIRΔ vol.12”

ファニ・フッタークネヒト (Fanni Futterknecht) / カミロ・ラトーレ (Camilo Latorre) オーストリア人アーティスト/コロンビア人作曲家

企画：アーティスト・イン・レジデンス/パフォーマンス/トークイベント

場所：JUJ arts&stay(大阪市此花区)

日時：2024 年 9 月

“AIRΔ vol.13 with TOKAS”

リスキー・ラズアルディ (Rizki Lazuardi)

インドネシア人アーティスト、キュレーター、プラットフォーム「Indeks」運営者

企画：アーティスト・イン・レジデンス/インドネシア映像作品上映会/トーク

場所：キツツキ(大阪市東成区)

日時：2024 年 11 月 22 日

“AIRΔ vol.14 with SEASUN”

プラット・ピマーンメン (Prach Pimarnman)

タイ人アーティスト、アートスペース「De‘lapae Art Space」創業者

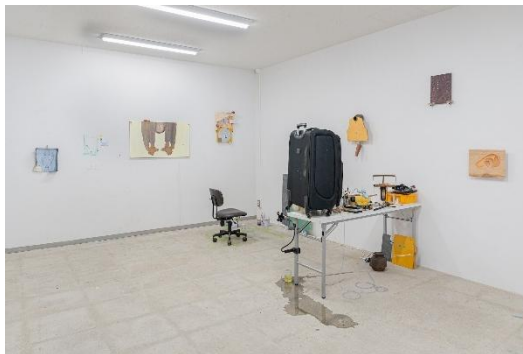
企画：アーティスト・イン・レジデンス/ワークショップ

場所：JUJ arts&stay(大阪市此花区)

日時：2024 年 11 月 29 日

AIRΔ プログラムでは、海外から 6 名のアーティストを大阪に招聘しました。そのうち 3 名は国内のアートセンターとの共同企画により短期滞在を実現し、残りの 3 名は海外のアートオーガニゼーションとの共同企画により、1~3 カ月の滞在を行いました。特に、2 年目となる Japan Foundation Manila との協力による大阪レジデンスのフィリピン国内公募では、フィリピン各地から約 65 名の応募がありました。この中から最終的に 3 名が選出され、大賞を受賞したララ・モンセラット氏は、大阪に 3 カ月間滞在し、リサーチと制作活動を行いました。

“AIRΔ vol.8 with WHITE SPACE Beijing” 楊健 (Yang Jian / ヨウケン)



AIRΔ vol.8 では、北京のギャラリー「WHITE SPACE」から推薦を受け、中国の南京と大阪を拠点に活動するアーティスト、ヨウ・ケン（楊健/Yang Jian）を招聘しました。ヨウ・ケン は、2024 年 6 月から 7 月にかけて、レジデンスパートナーである北加賀屋の Super Studio Kitakagaya で滞在

制作し、その後7月19日から21日に開催される「ART OSAKA」に合わせたオープスタジオにて、制作成果の展示を実施しました。さらにアーティストは常に在廊し、有機的な交流と対話を促す場を提供することで、アート制作の現場とマーケットとの新たな連携モデルを模索したプログラムでもありました。

“AIRΔ vol.9 with The Japan Foundation, Manila” ララ・モンセラット (Lala Monserrat)



TRA-TRAVEL、国際交流基金マニラ日本文化センター（JFM）、および Orange Project が共催する本プログラムは、大阪におけるアーティスト・イン・レジデンスアワードとして、フィリピン人アーティストを1名招聘するプロジェクトです。2024年6月中旬、JFMとOrange Projectによるフィリピン国内でのオープンコールには、全国から65名の応募が寄せられました。フィリピン側の選考委員により応募者は6名に絞り込まれ、その後日本の最終審査により、大賞はララ・モンセラット氏に決定されました。そしてモンセラット氏は、2024年10月から大阪で3カ月間のレジデンスを実施し、その制作活動とともに成果展を開催いたしました。

その成果展「Transitory Landscape」は、個人の大切な物品の刻印とそこに秘められた物語をアーカイブする試みから生まれました。ピエール・ノラの「記憶の場」やウィニコットの「移行対象」といった理論に着想を得た本プロジェクトは、各個人が日常から受け取る記憶や、文化・歴史的背景を共有するコミュニティへの帰属感を問い直すとともに、集合的な癒しと再生（レジリエンス）の重要性を提案する機会になりました。

“AIRΔ vol.11 with TOKAS” ハナン美弥



ハナン美弥は、2024年5月から7月にかけてTOKASで滞在制作し、1900年頃にアメリカへ渡った日本人移民、特に二度と日本の地を踏むことなくその生涯を閉じた移民たちの足跡を追うという歴史的リサーチに取り組んできました。この探求心をさらに深めるべく、関西におけるハナンのリサーチ活動は大阪での滞在中も継続され、リサーチに基づいたトークイベント『夢の国？日本ーアメリカの移民史』が開催されました。さらに、トークイベントには特別ゲストとして、和歌山県立近代美術館で企画展「トランスボーダー和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」（2023年）の担当学芸員の一人、奥村一郎さんをお迎えしました。奥村さんのお話を通して、日本ーアメリカ間にお

ける移民の歴史や、そこに刻まれた文化的・社会的背景に迫る機会となり、参加者にとってより深い理解を得る対話が行われました。

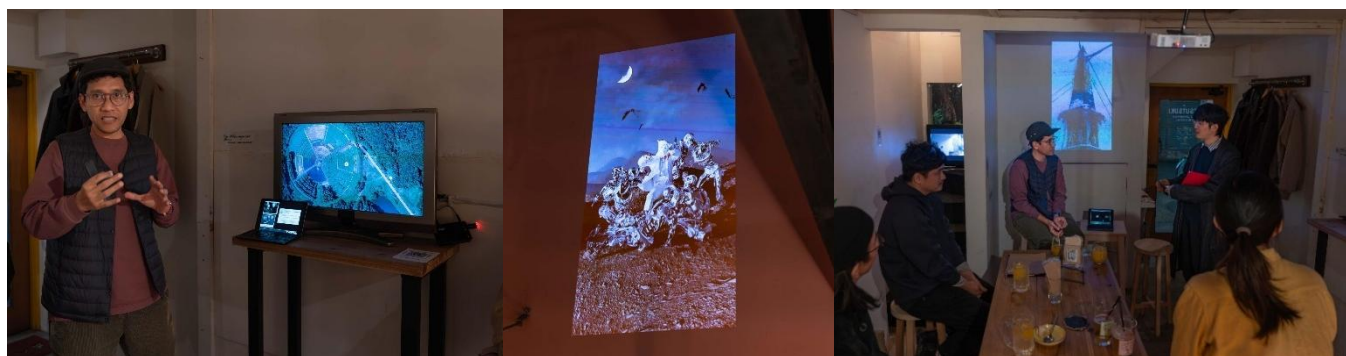
“AIRΔ vol.12”

ファニ・フッタークネヒト (Fanni Futterknecht) / カミロ・ラトーレ (Camilo Latorre)



本企画は、2024年9月に大阪滞在したファニ・フッタークネヒトと作曲家カミロ・ラトーレによるパフォーマンス『SIMULATION UNIVERSE (Osaka ver.)』を中心に、トークイベントと特別展が開催されます。『SIMULATION UNIVERSE』は「シミュレーション」というテーマのもと、おもちゃと遊びが内包する多層的な意味を探求するレクチャーパフォーマンス・インスタレーションです。ファニ・フッタークネヒトは、日本のおもちゃ文化や資本主義の「ファンタジーマーケティング」に注目し、国内外のポップカルチャー（ゴジラ、戦隊もの、スーパーマリオ、ポケモン等）が生み出す影響を問い直しました。なお、翌日9月30日には、パフォーマンスの構成要素を活かしたインスタレーション展示も実施され、新たな視点から観る機会となりました。

“AIRΔ vol.13 with TOKAS” リスキー・ラズアルディ (Rizki Lazuardi)



本企画では、インドネシア・バンドンを拠点に活動するアーティスト兼キュレーター、リスキー・ラズアルディを招聘しました。リスキーは、映像と拡張映画の分野で、制度化された情報やイメージの物質性をテーマに、数多くの芸術祭や展覧会で斬新な作品を発表してきました。今回のイベントでは、インドネシアのビデオアートと実験映画に焦点を当てた「映像スクリーニング」と「キュレータートーク」を開催します。映像の物語性からの脱却を目指す作品群は、視覚表現や映像速度の操作を通じて、時間表現の新たな可能性を提示しました。本プログラムに展示される現代のビデオ作品も、この「時間」への探究心に大きく影響を受けています。なお、今回のイベントはシネマ形式ではなく、アフターアワーを楽しむバーというパブリックな空間でキュレータートークセッションが開催され、鑑賞者との自由な対話を実現しました。

“AIRΔ vol.14 with SEASUN” プラット・ピマーンメーン (Prach Pimarnman)



本企画では、名古屋を拠点にアジアとのアート交流プロジェクト「SEASUN」で活動中のタイ・ナラーティワート出身のアーティスト、プラット・ピマーンメーンを大阪に招聘しました。プラットは、ムスリムとしての自身のルーツを題材に作品制作を進め、2023年の大阪旅行中に体験した日本人経営のハラール料理店での食体験を契機に、「ハラルフード」をテーマとするプロジェクトをスタートしました。大阪で開催される本イベント『ハラルタイカレーをつくりながら』では、①ハラル食材の購入、②共に調理、③そして共に食事するプロセスを通して、プラットの作品や彼が紡ぐ文化・社会への想い、ムスリム文化に触れるキッカケをもちました。

●TRA-TRA-TALK (アーティストトーク・プログラム)

“TRA-TRA-TALK vol.6”

筒 | tsu-tsu / 下田 展久「6okken」代表 / C.A.P 元代表

企画：トークイベント

場所：VisLab OSAKA グランフロント大阪(大阪市北区)

日時：2024年9月16日



TRA-TRA-TALK は、クリエイターや研究者が持つ探究心を軸に、専門知識や実情に精通した方々の対話を通して新たな学びを拓く、パブリックなトークイベントです。リサーチャー（聞き手）がレスポnder（応対者）に話を聞くことで、観客も交えた意見交換の場として、共に未来を模索する「相互の学びの場」を提供しています。

今回のトークでは、山梨県河口湖町でアーティスト・ラン・レジデンス「6okken」の運営を手がける筒さんをリサーチャーとして、また1994年に神戸で設立されたC.A.P.（芸術と計画会議）のメンバーである下田展久さんをレスポnderとしてお迎えし、『アーティスト・ラン・スペースの未来像』をテーマに対話／リサーチを展開しました。今後のアーティスト・ラン・スペースの可能性や、新たな実践について、両者の深い見識と生の経験から、多角的な視点が浮かび上がったトークになりました。

■成果・効果

AIRΔ vol. 8～14 および TRA-TRA-TALK vol. 6 のプログラムは、大阪を中心に国内外の多様な地域や施設を有機的に結びつけ、新たな国際交流と共創の場を実現する取り組みとして成果を挙げています。たとえば、AIRΔ シリーズでは、従来あまり交流のなかった地域住民や施設利用者と、海外から招聘されたレジデンス作家やクリエイターとの偶発的な出会いが生まれ、地域に根ざした国際交流が確実に進展しました。AIRΔ vol. 14 においては、タイ出身のプラット・ピマーンメーン氏が「ハラルタイカレーをつくりながら」というイベントを通じ、食という日常の体験を媒介として文化的対話を実現し、参加者が自由にその場に関与できるアットホームな雰囲気が参加者に新たな学びや気づきを生み出しました。

また、パフォーマンスや映像表現、実験映画、さらにはトークイベントと多様な形式を採用した AIRΔ vol. 12 や vol. 13、そして TRA-TRA-TALK vol. 6 では、クリエイターや研究者、地域のキーパーソンが集い、アーティスト自身の創造活動やそれに付随する歴史・文化的背景を深く探求する対話が行われ、従来の展示や講演形式に留まらない芸術交流が行われました。山梨県のレジデンス運営者や神戸発のアート計画会議のメンバーが参加する対話セッションなどは、参加者同士が一方的な知識の授受ではなく、意見交換と相互学習の機会となり、新たなアートネットワークが形成されるキッカケを作りました。

さらに、本プロジェクトの特徴は、専用施設を持たず、既存の公共施設や外部資源、協働する多くの国際的・国内パートナーと連携する柔軟性にあります。私たち TRA-TRAVEL の三者相互扶助モデルは、関係者間の負担やコストを大幅に削減しながら、質の高い制作活動や対話のあるイベント実施を可能にし、多くの観客や参加者にアートの新たな視座を提供する結果となっています。これにより、製作費や出演料、さらには宣伝・記録費といった予算の充実も実現し、アーカイブ化と情報発信が促進されました。

結果として、AIRΔ vol. 8～14 および TRA-TRA-TALK vol. 6 における一連のプログラムは、大阪発の国際的なアート交流のダイナミズムを具体的に示す事例となり、フィリピン、タイ、インドネシア、さらにはアメリカなど世界各地のアートシーンとの連携を通して、新たな芸術交流ネットワークを形成するとともに、国内外で継続可能な芸術モデルケースとして提示できたと思います。

これらの成果は、大阪に国際的なアートネットワークを生むという当初の目標が着実に進捗していることを示しており、今後もこのモデルをとおして、さらに多様な地域や国々へ波及していくことを目標にしています。

■今後の展開

令和 5/6 年は、「大阪アートシーンの国際的認知を高め、クリエイターが集うアートハブを大阪に創造すること」「地域に国際交流をもたらし、住人と共に大阪の文化芸術をボトムアップすること」を掲げ、22 組の国外アーティストを大阪の様々な地域に招聘し「レジデンス」「トーク」「展覧会」「映像上映」などを実施してきました。

今後はこれまでの『レジデンスによる国内外の芸術動線創造』の目標を継続し、また新プログラムとして、これまでに構築したネットワークを元にした『海外企画の大阪リメイク』を実施します。そして国内外のアートセンターとの新たなジャンルでの協働を開拓し、多様な芸術を大阪で紹介します。また、大阪版リメイク企画を国内アートセンターに巡回させ、「国外⇔大阪⇔国内」という大阪起点のアートネットワークを活性化させ、文化芸術の有機的な輪を広げようと考えています。